



教養講座

『お墓の家系図(お墓のついで)』

2月11日(日)曜日、松原地区公民館において1時半より3時まで、外部講師として武居範導様をお招きして講演会を開催し、25名が参加しました。先祖を知り、先祖を敬い、お墓参りや仏壇のお参りを自然に行っている家庭は安定しています。人生を明るく変える

る為に、家系図を作ることは先祖と子孫の一体化の始まりであり、敬いの心をつくる最短の道です。自分自身のルーツを知り、ルーツの象徴であるお墓に関心を持ちましょう。(以上、武居範導著書より抜粋) 家族全員でお墓参りし、最後に「いつも守ってくれてありがとう」と感謝の言葉を忘れないように心がけていきなすと思います。

婦人部長 山口のり子

地区人権視察研修

〜シリーズ〜

製糸産業を支えた工女たち

5年ぶりに出現した御神渡りも消え急に春めいてきた3月2日、岡谷市の蚕糸博物館と諏訪市の片倉館を訪問しました。各館の学芸員とガイドさんから施設や展示品の案内だけでなく、明治期以降の日本の製糸産業を牽引した企業家の努力やそれを支えた工女さんたちの話を伺いました。明治政府が導入した洋式繰糸機は金属を多用した非常に高価なものでした。諏訪式繰糸機は、それらの部品を陶磁器や木材に置き換え性能を維持しながら低価格化に成功し「シルク岡谷」を世界に轟かせ

ました。また、この発展を支えたのが、年若くして厳しい労働環境に対応し成果を上げていった工女さん達でした。工女については、とかく悲劇の対象として語られることがありますが、彼女たちが置かれていた時代の生活や経済環境は、現代では考えられないほど貧しく厳しいもので、違った評価もされているようです。蚕糸博物館と片倉館に保存されている工女たちの写真には、集団で長時間労働に従事している姿の他、勤務時間以外では楽しい集団生活を送っている様子を捉えたものもありました。

今回の人権視察研修は、全5回で構成されています。今後は、工女のお孫さんが語り

コラム 北の旅人

冬季オリンピック大会をテレビ観戦し、沢山の感動をもたらした。怪我を克服して金メダルをとった羽生選手をはじめ、スノーボードの平野歩夢選手も、去年の大きな怪我に「やってきたことが全て消えたように感じた。自分が折れ

そうになった。」という。リハビリ中は、地味な練習を黙々とこなし、自室でビデオを観て滑りのイメージを膨らませ、研究していたようだ。私の子どもも、サッカーをやっている、週の4〜5日は練習に行くが、足の肉離れを起した時はコーチにビデオを貸していただいたり、怪我をしていても出来る体幹トレーニングやストレッチを整骨院の先生に教えていただいた。スポーツをひとつ続ける為には、送迎や遠征、合宿など費用は勿論、周りの人の沢山の協力も必要になる。こうやって、周りの人達に支えられて、はじめて続ける事ができると思う。だからこそ頑張れるということ。忘れずに頑張ってほしい。メダルを取った選手への感謝の言葉を聞くと、心から共感できて、清々しい気持ちになった。(編集委員)

退任あいさつ

地域づくりセンター長 前川 文男

在任中、松原地区の皆様方にはひとかたならぬご厚情を賜り厚く御礼申しあげます。3年前の春着任したのが、つい先日のように思い起こされますが、私の市役所人生の総括となった職場が松原地区であったのも何かのご縁かと思えます。

中でも昨年2月に「地域包括ケアシステム検討会議」を設置し、毎月議論を重ねていただいたことは忘れられない思い出となりました。システム稼働に向けて行動を起そうという時に退任するのは若干の心残りもありますが、地区

の方々がきつと素晴らしい松原モデルのシステムを造りあげてくださると思っています。他にも交付金を活用した種々の事業等思い出は尽きませんが、この地区での経験は私の一生の宝物だと感じています。3年間本当にありがとうございました。



（冊子刊行委員）

1年間楽しく読んでいただきましたでしょうか。ありがとうございました。

平成29年度 館報編集委員一同